ゆずり葉コミュニティ　福祉ネットワーク会議　　令和元年１０月６日

グループワーク意見まとめ

◆前半の話を聞いての感想、気づきなど

・ゆずり葉地区の高齢化率が高いことは、知っていたが、他地区との比較があり、切実に感じる。
・高齢化率が高い。生活環境が高齢者向きではない。
・まさしく、自分自身の今近い未来に当てはまることで、高齢化と実感（数字を見て）。
・高齢化の進む中、たくさんの課題があることを痛感しました。自分の体が元気な時に理解できないことに思いを寄せつ事の困難さ。
・私たちの課題である高齢者問題について、色々感じるところがありました。現実にはいつも取り組んでいることなどですが、やはり孤立されている方をそのように輪の中にお連れするかが頭の痛いところです。
・高齢化率が思っていたより高い。子どもの声が聞こえない寂しさを感じる。自分もこれから迷惑をかけるようになると思うと今、何ができるか考えたい。
・高齢者の多い地域での見守りの大切さを痛感しています。
・「見守り」については、皆様が関心を持っておられるのがよく理解できました。
・それぞれの自治会で工夫されているので、参考にしたい。特に日常生活においての見守り活動をどう行うかが課題である。行政がどこまで協力してくれるか？
・地域内で見守り活動を活発にという趣旨は良いし、必要なことだとは思う。ただその活動主体を自治会に求めるのは無理がある。民生委員制度、地域包括支援センター等の強化を市が金を出して行うべき。
・自治会独自の取り組みには限界がある。
・20数年来逆瀬台地区のいつまでも住み続けたい「まちづくり」の精神があり、継続してステップアップされている。話し合われた前半のことは、通常言われていることと思いました。
・個人情報保護の縛りがあって、何をやっても消化不良。機械化による見守りで、家族に連絡する仕組みが必要。
・実態調査より感じたこととして、「人とのお話しも好まない方」等の支援の強化が必要なのでは？
・老人クラブ活動の中で、該当する項目（特に丁高齢者、病弱者）について、対象民生委員との関係をどう有効活用し、全体老人住民を活性化していくか。
・皆さん真面目だなぁ！
・私自身、子どもの通学の見守りはしておりますが、その他のことはできていない。地域の（特に並びの）ご近所の方々には、子どもたちが大変お世話になっており、出勤前や帰宅後、休日にお会いした方には、ご挨拶、立ち話などさせていただいております。しばらくお会いできない方は、気になって、他のご近所さんに現状をお聞きしたりしています。

◆自分たちにできること、これから必要なこと、どんな地域にしていきたいか

・地域包括支援センター、社協、デイセンター、自治会の協働と役割分担
・老人クラブ、民生委員の連携。
・老人クラブと民生委員との関わり、自治会（会長と民生委員が情報を持っている）
・情報を持っていても出せない。課題：民生委員、老人クラブ、各自治会の動きがバラバラ計画的なことに参加。
・個人情報がネックで全体が把握できてない。防災関係でも自治会と民生いいとの情報共有ができない。
・若い世代の参加
・若い人が入ってくるようには、どうすればよいか
・世代交代ができてない
・夏祭りを広く宣伝する。子どもの参加を進める
・福祉部に新しい人が入らない⇒若い世代コミュニティ活動の必要性を感じていない
・超高齢化かしていくゆずり葉コミュニティ会員の中で、いたわり合い、見守（具体的に）活動の強化
・人感センサーによる見守りの機械化
・外出介助
・両隣の会話、挨拶よりもゴミ出しの活用
・どうしたらコミュニケーションできる環境を作れるか、場づくり、仕掛け等
・ずっと住み続けたいと思う地域にしたい。（公園、人間同士のつながりづくり）マンション住まいです

が、良い意味での昔の長屋的なお付き合いを増やしたい。
・顔見知りになる事。声掛けを常にし、安否確認に努めていきたい。皆さんと廊下であってもご挨拶ができる環境づくりに努めたい。
・何ができるか？？？取り組み方。井戸端会議。
・近所の付き合いの少ない地域の中、場所の提供に依る、協力を？現実として難しいこと？
・やはり基本、同じ地域の方と挨拶、ちょっとした立ち話。近所と顔の見えるお付き合い。外に出ない方の把握。
・毎日ラジオ体操に行って、声かけをしてコミュニケーションをとりたいと思っております。
・高齢化の一番低い。50年歴史と８０人世帯。共助、自助。行政の形式⇒衰退、実行、役割工夫してやっている

◆参加しての感想
・いろんな話が聞けて楽しかった。役立つように頑張ります。
・いろいろな団体の方とお話しできて楽しかったです。
・みんなで考えることは大切だと思いました。
・皆さんのお話しをお聞きできて良かったです。地域によって、いろいろな声、意見があることを知りました。
・明るい雰囲気で発言しやすかったので、良かったと思います。
・自治会運営に多くのヒントがいただけました。
・いろいろなご意見が聞けて、参考になりました。困っていることの共通点が同じことが分かりました。(段差の件など)
・戸建て、マンションによる生活環境の違いはあるが、各自治会の活動方法や内容で参考にできることは当自治会でも取り入れていきたい。
・いろいろな自治会や団体の方が参加し、顔見知りになることで、今後の横のつながりに大きく貢献できると思います。
・グループ別意見（いろいろなグループ）多数意見が出て程々に交換できたのが良かった。
・いろいろなグループが一つになって、各々意見を出し合い、有意義だった。
・地域の交流の場へ参加する気持ちになる。他の人とする。おもしろくない？
・時間不足。
・やはり消化不良だった。
・地域の方々と貴重なお話ができました。
・とても高い志の方々が集まっていると感じた。
・形式より、実効性と継続が大事。
・身近な問題がたくさんあると感じた。
・逆瀬台小の卒業生の親だけど、卒業後は何も知らない状態でした。少しは関わりたいと思います。
・話し合いとしては、そこそこ有意義だったが、所詮言いっぱなしになってしまう。あるテーマを反し合うなら、申し越し時間が必要だと思う。
・今日のいろいろなディスカッションを実際フェーズにどうしたら持っていけるかが大事だと感じました。
・子育て世代の内容を聞くことができ新たなアイディアがでました。
・小学校へ来る道のりが険しい

◆グループワークの意見（発表・全体共有）

5グループ

・交通の便が悪い／普段の見守りや⇒難しい、方法、つなぎ先／場づくり
⇒定期的な井戸端会議（情報を共有、声かけをし続ける、気にかけ続ける）

4グループ

・民生、老人会、自治会など、各団体の横のつながりのしくみづくり
・個人情報について／人とのかかわりが難しい
・各団体の世代交代⇒若い世代へコミュニティの必要性を伝えていく

3グループ

・課題ばかりではなく良い点もある
・役割分担が大切だが、横のつながり連携の仕組み
・外出支援の取り組み。青葉台からゆずり葉地域全体へ広げていきたい。
・学校応援団の担い手⇒見守りにつながる
・場づくり

2グループ

・高齢化が進んでいることを痛感
⇒ご近所同士の助け合い、つながりが大切
（挨拶をする、サークル活動を進める、世代交代⇒活動力）

1グループ

・誰が？ではなく、みんなで支えることが大切
自由に出入りできる学校づくり
全ての人が役割をもって過ごすことができる（学童⇒見守り／運動会に地域の方の席／夏祭り）
⇒顔見知りになることでささえあい、子どもたちが安心できると親も安心できる
（子どもたちが安心できると親も安心できる）

ゆずり葉コミュニティ内各自治会、管理組合の「見守り」活動についての実態調査　ご意見

◇「見守り」活動の現状

・自治会役員４名による８０歳以上の独居高齢者を訪問、または電話によって月１回安否確認を行い、結果を役員会で報告する。

・自治会員については、入会時の家族カードにて災害時の要援護者リストは作成しております。平常時の見守りについては、会員の方に個別の声掛け（一人暮らし、ご高齢の方）希望のアンケートを配布し、集計結果により、活動内容を検討していく予定です。また、自治会行事を通じて、全戸に参加案内を配布し、住民同士のつながりを持ち見守り活動の一環につながればと思っています。現在、子どもさんに対しては、特別活動は行っていません。

・個々の見守りはしていませんが、マンションで年３回のお祭り（さくら祭り、夏まつり、クリスマス会）毎週のサロン活動、１００歳体操の実施でコミュニケーションをとり、年２階の防災訓練、毎月の安全委員会を実施。ゴミ出しヘルプも実施（依頼先２件ですが）

・公共や組織からの告知などについては、掲示板を使用して情報を発信するとともに、１０戸単位で回覧板による周知を行っております。この回覧時に各々お会いする確率が高い他、回覧印の押印によってもある程度は、見守り状況を把握できているかと思われます。

・発足以来、住民の皆さんが顔見知りになり、“つながり”を広く強くすることを基本にしています。日常生活の困りごと、お手伝い、緊急の時の発見、片づけなど、できる範囲で行っています。ふれあいサロンや自治会等の活動とも連携しています。

・バス停あたり、小学生がバスに乗る時間に有志の方が見守っています。

・三者に対する「見守り」活動は、特別に何も行っていない。

・サロン活動。高齢者の一人暮らし、一人暮らしの入居（新）者に対して、何かできることはないか、考えてきましたが、現状大変難しいです。高齢者、聴覚障がい、認知症、妄想等による行動（パトカー出動等）、卓球活動に毎週通われている方もいますが、補聴器使用している。

民生児童委員

・高齢者で気になる方には、定期的に訪問している。

・災害時要援護者の方々の訪問などはしていません。

・子どもたちの見守りについては、学校訪問時に先生から子どもさんたちの状況をお聞きしたり、声掛けはしています。

・高齢者⇒自治会の福祉部で、年８回のサロンと年２階のお食事会。敬老の日に、喜寿、米寿、卒寿、と９０歳以上の方々、お祝い訪問。民生委員として、熱中症、冬のインフルエンザ流行前に、お見舞い訪問。子ども⇒防犯部で逆小児童下校時の安全監視月２回

・主として高齢者を見守っています。おおむね「気にしてくれてありがとう」と感謝されます。高齢者宅の数が増えてきているので、手が回りかねているというのが現状です。

・民生委員と主に高齢者宅を訪問していますが、皆さん自立しており、今は、特に大きな問題はありませんが、隣が空き家で放火を心配され、毎日が不安だという相談を受けました。子供たちに関しては、毎朝我が家の前を通るので、もれなく見守っています。高齢者ドライバーによる子供たちを巻き込む事故が多いので心配です。子供が障害を持っており、自分自身も年を取ってきて、将来が不安だと話していました。

・逆瀬台５丁目は、高齢者の割合が多い地域ですが、現在特に大きな問題もなく、日頃の声掛け、雨戸の開閉、電話、訪問など見守りをしている。最近５丁目公園で、木刀（？）を振り回しパトカーが来たということがありました。

・登校時の旗当番と防災訓練時の見守り活動、オープンスクール時の校内パトロール

◇「見守り」の課題
・自治会員全員とその家族構成、年齢と緊急連絡先の確保。
・まず、居住者の実態（家族構成、年齢など）を把握することから始めなければならない。次に居住者が抱えている三者に対する要望を聴取する必要がある。
・全体の現状を知るのが難しい。
・動けるスタッフの確保が、難しいです。また、活動の範囲等どこまでが適切なのか、迷うところです。気の合う人たちのサークル活動の応援が良いのかもと思います。
・発足時、お手伝い等支える側だった人たちも支援を必要となりつつあります。やはり高齢化問題への対処が課題です。
・自治会行事について、毎回参加者の顔ぶれが同じで、それ以外の方への参加の働きかけをどうしていくか？災害時の要援護者リスト（自治会員のみ）は、作成しているが、残り組合員の１００戸については把握できていない。
・一人住まい、シニア世帯が増加傾向にあり、万一の場合の対処が課題です。
・腰、足が悪いので外出されず、人とのお話も好まない方が、一人でお部屋におられるのが気になる。サロンや集まりの声掛けしても断られる。孤立になりがち。
・お元気な時は、自治会の「まつり」や１５のサークル活動などに参加されていましたが、階段と坂が多い街で、この２～３年の間に、ホーム入所等で、私の担当していた高齢者の内１０件も空き家になり、この先心配しています。
・あますところなく見守り活動するためには、やはり民生委員が時間を見つけてマメに動くことかかな・・・と。
・介護保険を受けている方は、人の出入りがありますが、認定を受けていないお元気な方たちが、場所によってはほとんど高齢者でつながりもなく、寂しく感じていらっしゃるようなので、そういう方たちが気軽に集まれる場所があればと思います。
・障がい者の方は、市の要援護者申し込みにより、把握しているが、あまり表に出てこず、ひっそりと暮らしている感じがする。障害者も、健常者も対等に会話できる、まちづくりが望ましいと思う。
・不審者情報などの取り扱いと、活動参加者への情報共有のバランス

◇「見守り」活動の課題解決アイディア
・やはり原点に返り、顔見知りの関係を広げることが大切です。
・人感センサーによる機械システムによる安否確認と家族への連絡。
・理事会で活動の課題の具体案を決定し、対応を検討する。
・マンション全体のご高齢者、要支援者の把握を管理組合主体で進めてもらうよう話し合っています。「明るく挨拶しましょう」キャンペーン掲示をし、お互いお声かけをして少しでも住民同士が知り合える運動をしています。
・非常時の行動パターンの紹介、各行事を個別にお知らせする工夫。
・居住者各位の緊急連絡先のようなものが完備できると活動の一助になるものと思います。ただし、個人情報保護法との関係には、配慮が必要です。
・９０代の方ともお話しましたが、歩いて数分の集会所でも参加するのは嫌なようです。訪問より、最初は、何か「楽しいチラシ」等をポスティングして、徐々にお話しの回数を増やしていくのが良

いかと思います。「楽しいチラシは」は、手作りでよく、手渡しできるようになれば良いと思います。
・介護保険まで利用できない方に、通院、買い物で安く送迎してくれる組織があれば良いのにと思っています。
・役所からくる高齢者名簿を活用、普段から足で稼ぐ。
・自治会でもサロンド（年8回）、交流会（年2回）開催しているので、気軽に参加できるように声掛けをしていきたいと思っています。
・逆瀬台地区は、近隣関係に深く立ち入らないので、良いと思っている人が結構いるが、高齢者は、近くの親しい人に「何かの時は、お願い」と声を掛け合っている。
・子どもの見守り活動に関しては、プライバシーの問題などもあり、どのような見守りが必要なのか、よく考える必要があると思います。子どもの障害当事者に関しては、ある程度専門知識が必要であり、知識の共有などの機会があれば良いのではないかと考えます。